

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|---------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Lancet.2004.364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された初めての症例の報告。脾臓におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタンプロットなどによって同定されたが、脳には発見されなかった。プリオノ蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコドン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジェノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は英国におけるvCJDの今後の発症予測とサペーランスについて重大な示唆を含むものである。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Lancet.2004.364(9433), 529-531 | 輸血用の血液の場合、白血球を分離除去することでprion病の感染が防止できるかいかにについて検討した。ヒツジのscrapieを感染させたハムスターの血液から白血球を除いた分画を別の動物に輸血した。感染率は大幅に低下したが、かなりの程度で感染が見られた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23 | 今までに英国血漿ドナー9例がvCJDを発症し、計23回供血され、血液製剤原料として使用されたが、感染伝播の報告はない。 |
| | | | | | | | | | | | HIV | Vox Sanguinis, 2004, 88, 171-177 | 抗体陽転前の血液サンプル中に存在するRNAが150/ml以下の場合、ミニプールNATでは適切に検知できない可能性がある。個別NATの場合RNAを確実に検出することが可能であることから、ミニプールNATの精度向上と個別NATの制度化が提案されている。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | committee for medicinal products for human use ,21Oct 2004,EMEA発 | vCJDのリスクに関する血しょう由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report, 2004, 10(38), 1-3 | FDAの伝達性海綿状脳症諸問題委員会は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し現行のままでいくこととした。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ABC Newsletter, 2004:10 (38)1-3 | フランスで8例目のvCJDが報告された。血しょう分画製剤による伝播の証拠はない。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | PROMED-Mail 20041128.3138:Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004 | ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウィルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となったヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|--------------|-----------------------------|-------------------|------|-------------------------|------|----|----|------------|-------------------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 共同通信2004/12/17 | HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け輸血により伝播した。 |
| | | | | | | | | | | | ウエストナイルウ イルス感染 | Transfusion, 2004, 44,1695- 9 | ミニプールでNATを行ったが、西ナイル ウィルスがすり抜け感染した。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion, 2004, 44,1555- 61 | 献血時は無症状だった急性A型肝炎の 献血者から輸血された患者にHAV感染 が起こったことが始めて証明された。 |
| 2005/03/28 | 41074 | 日本製薬株式会 社 | 乾燥ポリエチレングリコール処理 人免疫グロブリン | ポリエチレングリ コール処理 | 人血液 | ①日本、②現 在は製造して いない | 有効成分 | 有り | 無し | 無し | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Department of health 22 July 2004 | 輸血制限対照として新たに受血歴不明 の供血者と受血経験のある血しょう成分 提供者を追加。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet.2004.364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の 疾患が元で死亡した患者におけるvCJD 感染が解剖で検出された始めての症例 の報告。脾臍におけるプロテアーゼ抵抗 性蛋白がウエスタン blotなどによって 同定されたが、脳には発見されなかっ た。プリオン蛋白の免疫組織化学では、 子宮頸部リンパ節においても、陽性反応 がみられた。この患者はPRNPのコドン 129がヘテロ接合体であり、これはvCJD 感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ 接合体のPRNPジノタイプに限定されな いことを意味している。これらの知見は 英国におけるvCJDの今後の発症予測と サベーランスについて重大な示唆を含む ものである。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet.2004.364(9433), 529-531 | 輸血用の血液の場合、白血球を分離除 去することでprion病の感染が防止できる かいかにについて検討した。ヒツジの scrapieを感染させたハムスターの血液 から白血球を除いた分画を別の動物に 輸血した。感染率は大幅に低下したが、 かなりの程度で感染が見られた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23 | 今までに英國血漿ドナー9例がvCJDを 発症し、計23回供血され、血液製剤原料 として使用されたが、感染伝播の報告は ない。 |
| | | | | | | | | | | | HIV | Vox Sanguinis, 2004, 86, 171-177 | 抗体陽転前の血液サンプル中に存在す るRNAが150/ml以下の場合、ミニプール NATでは適切に検出できない可能性が ある。個別NATの場合RNAを確實に検 出することが可能であることから、ミニ プールNATの精度向上と個別NATの制 度化が提案されている。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|--------------|-------|-------------|------|-----------------|------|----|----|------------|-------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | committee for medicinal products for human use ,21Oct 2004,EMEA発 | vCJDのリスクに関する血しょう由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | AABB Weekly Report, 2004, 10(38), 1-3 | FDAの伝達性海綿状脳症諸問題委員会は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し現行のままでいくとした。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ABC Newsletter, 2004;10 (38)1-3 | フランスで8例目のvCJDが報告された。血しょう分画製剤による伝播の証拠はない。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | PROMED-Mail 20041128.3138:Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004 | ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウイルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となったヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 共同通信2004/12/17 | HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け輸血により伝播した。 |
| | | | | | | | | | | | ウェストナイルウ イルス感染 | Transfusion, 2004, 44,1695- 9 | ミニプールでNATを行ったが、西ナイルウイルスがすり抜け感染した。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion, 2004, 44,1555- 61 | 献血時は無症状だった急性A型肝炎の献血者から輸血された患者にHAV感染おこったことが始めて証明された。 |
| 2005/03/28 | 41075 | 日本製薬株式会 社 | トロンビン | トロンビン | 人血液 | ①②日本(③ は未発売) | 有効成分 | 有り | 有り | 無し | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Department of health 22 jJuly 2004 | 輸血制限対照として新たに受血歴不明の供血者と受血経験のある血しょう成分提供者を追加。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet.2004;364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された始めての症例の報告。脾臍におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタン blotなどによって同定されたが、脳には発見されなかった。プリオン蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコドン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジェノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は英国におけるvCJDの今後の発症予測とサーベーランスについて重大な示唆を含むものである。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|----------|----------|-------------|------|------------------------|------|----|----|------------|---------------|-----------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Lancet.2004;364(9433), 529-531 | 輸血用の血液の場合、白血球を分離除去することでブリオン病の感染が防止できるかいかないかについて検討した。ヒツジのスクレイピーを感染させたハムスターの血液から白血球を除いた分画を別の動物に輸血した。感染率は大幅に低下したが、かなりの程度で感染が見られた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23 | 今までに英国血漿ドナー9例がvCJDを発症し、計23回供血され、血液製剤原料として使用されたが、感染伝播の報告はない。 |
| 2005/03/28 | 41076 | 日本製薬株式会社 | 加熱人血漿たん白 | 人血清アルブミン | 人血液 | ①③⑤日本 (②④現在製造していない) | 有効成分 | 有り | 有り | 無し | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Department of health 22 July 2004 | 輸血制限対照として新たに受血歴不明の供血者と受血経験のある血しょう成分提供者を追加。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|------------|-------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet.2004;364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された始めての症例の報告。脾臓におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタン blotなどによって同定されたが、脳には発見されなかつた。プリオン蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコドン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は英国におけるvCJDの今後の発症予測とサペーランスについて重大な示唆を含むものである。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet.2004;364(9433), 529-531 | 輸血用の血液の場合、白血球を分離除去することでprion病の感染が防止できるかいかについて検討した。ヒツジの scrapieを感染させたハムスターの血液から白血球を除いた分画を別の動物に輸血した。感染率は大幅に低下したが、かなりの程度で感染が見られた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23 | 今までに英国血漿ドナー9例がvCJDを発症し、計23回供血され、血液製剤原料として使用されたが、感染伝播の報告はない。 |
| | | | | | | | | | | | HIV | Vox Sanguinis, 2004, 88, 171-177 | 抗体陽転前の血液サンプル中に存在するRNAが150/ml以下の場合、ミニプールNATでは適切に検出できない可能性がある。個別NATの場合RNAを確実に検出することが可能であることから、ミニプールNATの精度向上と個別NATの制度化が提案されている。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | committee for medicinal products for human use 21Oct 2004, EMEA発 | vCJDのリスクに関する血しょう由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | AABB Weekly Report, 2004, 10(38), 1-3 | FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し現行のままでいくとした。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ABC Newsletter, 2004;10 (38)1-3 | フランスで8例目のvCJDが報告された。血しょう分画製剤による伝播の証拠はない。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|----------|----------------|-------------|------|-----|------|----|----|------------|---------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | PROMED-Mail 20041128.3138:Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004 | プラの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウイルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となったヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。 |
| | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス感染 | Transfusion, 2004, 44,1895-9 | ミニプールでNATをおこなったが、西ナイルウイルスがすり抜け感染した。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion, 2004, 44,1555-61 | 献血時は無症状だった急性A型肝炎の献血者から輸血された患者にHAV感染が起きたことが始めて証明された。 |
| 2005/03/28 | 41077 | 日本製薬株式会社 | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | 人アンチトロンビンⅢ | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有り | 有り | 無し | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Lancet.2004.364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された始めての症例の報告。脾臍におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタン blotなどによって同定されたが、脳には発見されなかった。プリオン蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコドン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジェノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は、英国におけるvCJDの今後の発症予測とサペーランスについて重大な示唆を含むものである。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Lancet.2004.364(9433), 529-531 | 輸血用の血液の場合、白血球を分離除去することでプリオン病の感染が防止できるかいかにについて検討した。ヒツジのスクレイバーを感染させたハムスターの血液から白血球を除いた分画を別の動物に輸血した。感染率は大幅に低下したが、かなりの程度で感染が見られた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23 | 今までに英国血漿ドナー9例がvCJDを発症し、計23回供血され、血液製剤原料として使用されたが、感染伝播の報告はない。 |
| | | | | | | | | | | | HIV | Vox Sanguinis, 2004, 86, 171-177 | 抗体陽転前の血液サンプル中に存在するRNAが150/ml以下の場合、ミニプールNATでは適切に検地できない可能性がある。個別NATの場合RNAを確実に検知することが可能であることから、ミニプールNATの精度向上と個別NATの制度化が提案されている。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|--------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|------------|-------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Committee for medicinal products for human use ,21Oct 2004,EMEA | vCJDのリスクに関する血しょう由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | AABB Weekly Report, 2004, 10(38), 1-3 | FDAの伝達性海綿状脳症諸問題委員会は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し現行のままいくこととした。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ABC Newsletter, 2004;10 (38)1-3 | フランスで6例目のvCJDが報告された。血しょう分画製剤による伝播の証拠はない。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | PROMED-Mail 20041128.3138:Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004 | ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウィルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となつたヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。 |
| | | | | | | | | | | | ウエストナイルウ イルス感染 | Transfusion, 2004, 44,1695- 9 | ミニプールでNATを行ったが、西ナイルウイルスがすり抜け感染した。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion, 2004, 44,1555- 61 | 献血時は無症状だった急性A型肝炎の献血者から輸血された患者にHAV感染おこったことが始めて証明された。 |
| 2005/03/29 | 41078 | 日本赤十字社 | | 合成血 | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有り | 無し | 無し | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ProMetic Life Sciences Inc. 2004/08/03 | PRDT社は赤血球製剤のプリオン除去フィルターを2005年にまでに上市することを目指している。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | The Lancet, 364, 529-531, 2004/08/27 | スクレイピーを感染させたハムスターから採血し、プールした全血450mlから市販のフィルターを用いて白血球除去した。白血球数は2.9log低下し、TSE感染因子総量の42%除去した。白血球除去フィルターは白血球由來の感染を防ぐには十分ではない。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Journal of General Virology, 2003, 85, 2727-2733 | アミノ酸部位136,154,173でアラニン、アルギニン、アルギニンをエンコードする対立遺伝子のホモ接合を持つヒツジはスクレイピー抵抗性と考えられていたが、2頭のヒツジよりプリオン蓄積が確認された。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|------------|-------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Lancet,2004;364, 527-529 | vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された始めての症例の報告。脾臓におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタン blotなどによって同定されたが、脳には発見されなかつた。プリオラン蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコドン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジェノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は英国におけるvCJDの今後の発症予測とサベーランスについて重大な示唆を含むものである。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Irish Blood Transfusion Service,Press Releases 2004.10.31 | アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国滞在歴や手術歴などに新たに供血者制限を入れた。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ProMED, 20041124-0040 (Expatica, AFP記事) | フランスで9例目となるvCJD患者の品会献血が報告された。該当血液はすでに使用されているため、受血者の追跡調査を開始した。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | Science, 2004; 306, (5702) : 1793-1796 | 129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオラン蛋白質はvCJDの発現を阻止する。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | J Neuroscience. 24(50), 11280-11290, 2004 | フェリチンが種の間で保存性を示すため、遠く離れた種のPrP(Sc)が腸管から吸収されるのを促進し、ヒトにおける輸送体となる可能性がある。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ABC Newsletter, 2004.12.17 | オランダは血液を介したvCJD伝播の懸念から、2004/12/9供血に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。 |
| | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ ヤコブ病 | ProMED, 20050129-0060 (EU食品局安全ウェブサイト 1/28) | フランスのヤギが狂牛病検査の結果陽性であることが判明した。これはウシ以外の食用動物が牛海绵状脳症に感染した始めての事例である。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | WHO/CSR, 2004/08/20 | 中国の獣医学研究所がトリインフルエンザA型(H5N1)によるブタへの初めての感染が確認されたと発表した。データが少なく、WHOは研究所に詳細な情報を求めた。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | Science, 2004, 306, 241 | インフルエンザA型ウイルスに体制があると考えられていたネコにH5N1型が感染することが示された。またH3N2型は感染が成立しなかった。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|------------|-----------|--|--|
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | WHO/CSR, 2004/12/30 | 高病原性インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | New English Journal of Medicine, 2005, 352(4), 333-340 | 高病原性インフルエンザ(H5N1)がヒトヒト感染したことを示す最初の報告。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | aaBB Association Bulletin, #04-08 2005.1.24 | 米国血液銀行協会は血液採取施設に対してA型肝炎ウィルス流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置にしたがって、供血延期措置を実施するよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | HIV、C型肝炎 | New English Journal of Medicine, 2004, 351(8), 760-768 | 血清学的検査陰性供血者の米国供血者に対するミニプール拡散増幅検査の結果、年間約5件のHIV-1また、約56件のHCVを検出した。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎、C型肝炎 | Journal of Medical Virology, 2004, 74(2), 216-220 | イタリアの急性HBV感染の約15%、急性HCV感染の約11.5%は理容室のひげ剃りやピアス、フットケア等の美容業界における感染である。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | Hepatology, 2004, 40(5), 1072-1077 | カナダの血液透析センターにおいて血液透析を受けている成人患者におけるoccult HBV有病率は、標準的なHBsAg検査が示唆するよりも約4~5倍高い。またウイルス量が少なく、sG145R変異体の保有率が高い。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | ABC Newsletter, 2004.10.22.8-9 | FDA血液製剤諮問委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え、供血者のリエントリーを可能とするよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | American Society of Hematology 46th Annual Meeting, 2259 | B型肝炎の既往歴を有する14名の患者に対し実施された同種造血幹細胞移植ではHBVが再活性化しているリバースセレコンバージョンとなる可能性が示された。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | Vox Sang, 2005, 88(1), 10-18 | 日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV、HCV双方とも、主に若年者で、入院患者とは異なるジノタイプの分布を有する。HBVのまれなジノタイプHが日本で始めて発見された。本調査は若年者にHBV、HCVが現在広がっていることの報告である。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | Journal of Medical Virology, 74(4), 563-572, 2004 | 日本の透析患者におけるHEV保有率は低値であった。1979年の輸血に起因するとされるHEV感染症例も示された。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|---------------|---|----------|------|---------------------------|------|----|----|--------|-------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | Journal of Medical Virology, 74(4), 563-572, 2004 | 血液透析を受けている患者416名から採取した血清検体と血液透析開始時に採血されていた血清検体について、HEV感染率を調査した。39名がHEV IgGAbを保有し、35名が血液透析開始時に陽性であった。残る4名のうち1名は輸血を受けており、供血者の血清検体からHEV-RNAが検出され、患者から採取したものと検索範囲において相同性が一致した。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004 | ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウィルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となったヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 肝臓, 2004; 45(suppl3)第35回日本肝臓学会東部会講演要旨No117 | 輸血後のE型肝炎が示唆されたとの報告である。 |
| | | | | | | | | | | | ウェストナイルウイルス | ABC Newsletter, 2004/11/5 | FDAはウェストナイルウィルスに対する供血延長期間を28日から56日に拡大することを勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | ウェストナイルウイルス | ProMED, 200501259-0070 (ウィルス学生物工学研究センター 1/24) | ウェストナイルウィルスが現在ロシア極東地域で循環していることが確認された。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | The Lancet, 2004, 364, 869-874 | インドで2003年に小児の間でチャンディプラウイルスの急性脳炎の大流行が報告された。329例中183例が死亡し、塩基配列は1985年の株と96.7~97.5%の高い相同性を示した。 |
| | | | | | | | | | | | デング熱ウイルス | Clinical Infectious Disease, 2004, 39(6), e56-60 | デング熱患者の血液飛沫を顔面に受けた医療従事者が、ウイルスに感染した。蚊を媒介とせず、皮膚粘膜を介して伝播したと考えられる最初の症例。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | ProMED, 20041123-0030 (TopNetEurop, 11/27) | ニパウイルス感染による死亡例でヒトヒト感染が疑われた。 |
| 2005/03/30 | 41079 | ZLBペーリング株式会社 | フィブリノゲン加第XIII因子 | アプロチニン液 | ウシ肺 | ウルグアイ、米国、ニュージーランド | 有効成分 | 無し | 無し | 無し | | | |
| 2005/03/30 | 41080 | ZLBペーリング株式会社 | フィブリノゲン加第XIII因子 人血液凝固第XIII因子 人血清アルブミン | 人血清アルブミン | ヒト血液 | ①④⑤⑥米国、ドイツ、オーストリア ②③米国 | 添加物 | 有り | 有り | 無し | HIV | Transfusion, 2004, 44(8), 929-933 | 米国における、ミニプールNAT実施後2例目のウンドウ期間中の献血者からのHIV伝播の報告。18歳のドナーから2人に感染した。 |
| 2004/03/30 | 41081 | 財団法人阪大微生物病研究会 | 発疹チフスワクチン | 卵黄蓋 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有り | 無し | 無し | インフルエンザ | Emerg.Infect.Dis,2004;10(7): 2004,1321-1324 | 既知の症状と異なり、発熱や下痢症状を示しているが呼吸器症状を示していない鳥インフルエンザ罹患者に関する報告。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使 用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|------------|-------|---------------|------------------------------|-------------|--------|-----------|------|----|----|------------|---------|--|---|
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | ProMEDのHP (Avian influenza,humans-Japan(Kyoto)(3)) | 厚生労働省は12/22 2004年2月にニワトリで発生した鳥インフルエンザ流行の際に少なくとも1名が同インフルエンザに感染したが、この感染者からヒトヒト感染の機会なかったと発表した。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | New English Journal of Medicine, 2005, 352(4), 333-340 | 高病原性インフルエンザA(H5N1)がヒトヒト感染したことを示す最初の報告。 |
| 2005/03/30 | 41082 | 財団法人阪大微生物病研究会 | インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン | 尿膜腔液 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有り | 無し | 無し | インフルエンザ | Emerg.Infect.Dis.2004;10(7): 2004,1321-1324 | 既知の症状と異なり、発熱や下痢症状を示しているが呼吸器症状を示していない鳥インフルエンザ罹患者に関する報告。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | ProMEDのHP (Avian influenza,humans-Japan(Kyoto)(3)) | 厚生労働省は12/22 2004年2月にニワトリで発生した鳥インフルエンザ流行の際に少なくとも1名が同インフルエンザに感染したが、この感染者からヒトヒト感染の機会なかったと発表した。 |
| | | | | | | | | | | | インフルエンザ | New English Journal of Medicine, 2005, 352(4), 333-340 | 高病原性インフルエンザA(H5N1)がヒトヒト感染したことを示す最初の報告。 |
| 2005/03/31 | 41083 | 日本医薬品工業株式会社 | ウリナスタチン | ウリナスタチン | ヒト尿 | 該当しない | 有効成分 | 無し | 無し | 無し | | | |
| 2005/03/31 | 41084 | 扶桑薬品工業株式会社 | ヘパリンナトリウム注射液 | ヘパリンナトリウム | ブタの腸粘膜 | 米国、カナダ、中国 | 有効成分 | 有り | 無し | 無し | サルモネラ症 | Emerg.Infect.Dis.2004;10(9): 2004,1674-1676 | 台湾の監視システムによるとコレラライス血清型サルモネラ菌のフルオロキノロン耐性は2000年から2003年には70%に達している。感染源は飼育ブタである可能性が高い。フルオロキノロンが重症のサルモネラ感染症の治療薬であることから、この耐性は重大な話である。 |
| | | | | | | | | | | | サルモネラ症 | Emerg.Infect.Dis.2004;10(12): 2225-2227 | オランダの農場でヒト、ブタおよび仔ウシから多剤耐性サルモネラが単離された。ブタヒト感染の可能性がある。 |
| | | | | | | | | | | | サルモネラ症 | Epidemiol Infect.2004;132(5):881-887 | ドイツではまれな血清型である、サルモネラ菌種が2001年に分離された。発行ソーセージの消費と関連性が示唆された。 |